

企業ニュース 第一三共

(東証1部:4568) <https://www.daiichisankyo.co.jp>

作成者:兵藤三郎

がん領域に注力する創薬企業

2005年、三共と第一製薬との共同持ち株会社として設立、売上構成比は日本の比重は高いが、グローバルに事業展開している国内大手創薬企業。現在、主力3つの抗体薬物複合体(ADC)に研究開発リソースを集中投入するとともに、持続的成長の実現に向けSOC(標準治療法)を変革する製品群(alpha)の創薬をめざす「3 and Alpha」戦略を展開する。3は「エンハーツ」、「Dato-DXd」、「HER3-DXd」の3ADC、Alphaはオンコロジー、スペシャルティ・メディスン、ワクチンの3領域を示す。当社のADCは汎用性が高く様々な抗体との組み合わせが可能、現在4、5ADCを目指し、B7-H3、GPR20、CDH6などの抗原を対象とした臨床試験を行っている。「エンハーツ」、「Dato-DXd」は2019年3月および2020年7月にアストラゼネカ社と提携し、開発と商業化を進めている。「エンハーツ」は9月21日に「T-DM1」との比較試験のデータが示された。同データは「エンハーツ」の圧倒的な優位性を示したと受け取り、今後の拡大に期待が持てる。新型コロナ関連では、2022年中の承認・販売を目指し、mRNA技術を用いたワクチンの開発を進めている。

「エンハーツ」の業績貢献が始まる

22.3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は、売上収益が2,641億円、前年同期比11%増、営業利益が458億円、同34%増。グローバル主力品である「リクシアナ」(抗凝固剤)や「エンハーツ」の伸長に加え、前年に新型コロナ影響を受けた「インジェクタファー」(鉄欠乏性貧血治療剤)の反動増なども寄与した。ジャパンビジネスユニットでは、「エンハーツ」は伸長したが、薬価改定や、後発品の参入で「メモリー」(アルツハイマー型認知症治療薬)が大きく落ち込むなど苦戦、一方海外は「エンハーツ」が貢献、上市国での市場浸透、上市国拡大が寄与した。

22.3期業績の会社計画は、売上収益が9,900億円、前期比3%増、営業利益が700億円、同10%増。期初計画は据え置かれたが、進捗状況などを勘案すれば、第1四半期は順調に進捗した模様。欧州臨床腫瘍学会で発表された「エンハーツ」のデータからは今後の同剤のさらなる市場拡大が期待できよう。中期的にはその他のADCでのアップデート、新型コロナワクチン開発などがカタリストとなる。

【株価動向・投資判断】

「エンハーツ」のさらなる市場拡大が業績をけん引しよう。その他のADC開発進捗やワクチン開発にも期待が持てる銘柄。

<4568 第一三共 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
20.3	981,793(6)	138,800(66)	141,164(64)	129,074(38)	66.4	70.00
21.3	962,516(▲2)	63,795(▲54)	74,124(▲47)	75,958(▲41)	39.2	54.00
22.3 予	990,000(3)	70,000(10)	70,000(▲6)	50,000(▲34)	26.1	27.00

(注1)20年10月1日付で普通株式1株を3株の割合で株式分割を実施。20.3期の1株利益は当該株式分割考慮後の数値

(注2)21.3期の1株配当は分割前第2四半期末40.5円と分割後期末13.5円の単純合計



【主要株価指標】 (売買単位:100株)	
株価(2021/10/8)	2,900.5 円
年初来高値(高値日)	3,757 円(21/1/19)
同安値(安値日)	1,981.0 円(21/8/6)
予想PER(22.3予)	111.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	668.0 円
PBR	4.34 倍
予想配当利回り	0.93 %
(1株当たり配当金年27.00円)	
ROE(21.3)	5.9 %
発行済み株式数	194,703 万株